

Despite and In Spite of in the LOB and Brown Corpora

Tajima Matsuji
九州大学言語文化部

<https://doi.org/10.15017/1355861>

出版情報：英語英文学論叢. 44, pp.125-136, 1994-02. 九州大学英語英文学研究会
バージョン：
権利関係：

コンピューター・コーポラ利用による現代英米語法研究(7)*

— despite と in spite of —

田島松二

I

アメリカ英語の言語資料 Brown コーパス (the Brown Corpus) とイギリス英語の言語資料 LOB コーパス (the Lancaster-Oslo/Bergen Corpus) を利用した一連の研究で、今回取り上げるのは「・・・にもかかわらず」の意味を表す *despite* と *in spite of* という語句である。(この一連の研究の目指すところと両コーパスの概略については別稿で述べているので、そちらを参照されたい。¹⁾)

II

「・・・にもかかわらず」の意味で使われる前置詞 *despite* と前置詞句 *in spite of* は、共に元々中英語期に古フランス語の 'en despit de' (・・・を軽蔑して) の翻訳借入語句 (calque) として現れる 'in despite of' に由来する。*despite* という前置詞は 'in despite of' の *in* がまず落ちて *despite of* になり、更にその *of* が落ちた形である (*in despite of* → *despite of* → *despite*)。一方、*in spite of* という前置詞句は 'in despite of' の *despite* が語頭音 (de-) 消失を起こした結果生じた形である (*in despite of* → *in spite of*)。その過程で *in despite of* の *of* が落ちた *in despite* や *in spite of* の *in* が落ちた *spite of* という形も現れたが、今日まで生き残っているのは *despite* と *in spite of* のみである。古い形 *in despite of* や *in despite* は今日すっかり姿を消し、*despite of* と *spite of* がかろうじて口語・俗語レベルで残存しているぐらいである。

* 小論作成にあたっては、データ検索を共同研究者のひとり許斐慧二氏 (九州工業大学情報工学部) にお願した。記して謝意を表す。

1) 田島松二・許斐慧二「コンピューター・コーポラ利用による現代英米語法研究(1)―“prevent me (from) going”と“prevent my going”―」『英語英文学論叢』(九大) 第43集 (1993), pp. 145-60.

意味も本来の「・・・を軽蔑して」から「・・・を無視して」へ、そして最終的には今日の「・・・にもかかわらず (= notwithstanding)」へと変化してきたのである。²⁾

このような歴史的経緯からして、*despite* と *in spite of* の意味・用法が実質上同じであるのは当然のことである。ところが、どうも *in spite of* の方が口語的で、*despite* はやや文語的な語だと思われる節がある。然るにアメリカ英語では、特に新聞英語等で圧倒的に目につくのは *despite* の方である。そこで、今一度、語法上は何の問題もないように思われる *despite* と *in spite of* 及びその関連形式を取り上げ、使用頻度や文体等の観点からその実態を LOB, Brown 両コーパスで確認してみることにする。その前に英米の辞書・語法書等の説くところを見てみよう。

III

まずイギリス系辞書であるが、手許の辞書は例外なく *despite* という前置詞を '*in spite of*' と定義していることからしても、今日では両者が全く同義に使われることは明らかである。(もっとも *in spite of* という成句の定義は '*notwithstanding*' であったり、'*despite*' であったり、ではあるが。) 文体レベル表示に関しては、LDCE^{1,2} (1978 & 1987) が *despite* を形式ばった (formal) 表現としているほかは何ら特別の注記もない。ただし、OALD² (1963) では *despite of*, *in despite of* という成句が注記なしに記載されていたが、その第3版 (1974) ではそれらが廃用に帰しつつある (obsolescent) とし、今日では *in spite of* が普通であると説明している。そして最新の第4版 (1989) ではこれら二つの成句そのものが削除されている。Collins^{1,2,3} (1979, 1986, 1991) は *in despite of* を稀とし、COD も第5版 (1964) までは、*despite* の項で *in despite of*, *despite of*, *despite* を並記し、*spite* の項では (in) *spite of* という表記の仕方では *in* 脱落の可能性を示していたが、第6版 (1976)、第7版 (1982) では *despite of* と *spite of* を古風 (archaic) であるとし、最新の第8版 (1990) では *despite of* と *in despite of* の両方を古風とし、*spite of* は削除している。最近のイギリス系辞書では唯一 Penguin (1979) が *in despite of* を注記なしに成句として載せている。更に、Chambers (1988) にも注記なしに *spite (of)*

2) OED s.v. *Despite* 5a-5e 参照。

(= despite) という成句が挙げられている。ということは spite が単独で前置詞として使われることがあるということであろうか。なお、やや古い UED (1932) にも in despite of と spite of は成句として取り上げられているが、文体レベルに関する表示はない。イギリス系語法書等では, despite と in spite of が慣用法であり, despite of は非正用法あるいは俗語であるとする点では, これを取り上げた大方のものが一致している。³⁾ despite をやや文語的な語と考える向きもあるが,⁴⁾ 逆に Clark (1987) のように in spite of より despite の方が好まれるとする語法書もある。なお, Partridge (1947¹⁾) は despite of, in despite of は今日では高尚なまたは詩的な文体に残るのみで, 廃用に帰しつつあるとするが, spite of の方は口語的表現としている。おもしろいのは, 幾つかの語法書が that-節を導く despite the fact that, in spite of the fact that を although の冗長な表現としていることである。⁵⁾

他方, アメリカ系辞書も despite と in spite of を同義とする点ではイギリス系辞書とほぼ同様であるが, 注目すべきことはごく最近のものも含め大方の辞書がイギリス英語では古風な表現とされる in despite of という成句を何の注記も付さずに記載していることである。⁶⁾ なお, AHD¹ (1969, s.v. notwithstanding) は同義の3つの表現形式について in spite of > despite > notwithstanding の順に意味が弱くなるという説明を与えている。語法書では Mager & Mager (1974¹⁾) に despite の方が in spite of より形式ばった表現であるという説明があったが, その改訂版 (1993) では despite の項目そのものが削除されている。しかし Wilson (1993) では, より一般的な形は in spite of であるが簡潔を尊ぶものの中には despite の使用を奨励する向きもあるといった説明の後に, despite も although も in spite of も全て有用かつ標準語法であり, いずれを用いるかは文脈と文体によるとしている。また, アメリカ系語法書も幾つかが despite/in spite of the fact that を although の冗長な表現であると述べている。⁷⁾

3) 例えば, Wood (1662 & 1967), Quirk et al. (1985), Greenbaum & Whitcut (1988), Howard (1993) 参照。

4) 例えば Quirk et al. (1985), Howard (1993) 等参照。

5) Fowler² (1968), Quirk et al. (1985), Greenbaum & Whitcut (1988) 等参照。

6) 例えば, ACD (1962), RHD¹・² (1966, 1987), RHWCD (1991), WCD (1993), WNWD³ (1988), 等々。但し, Web.3 (1961) は記載していないし, AHD も初版 (1969) と第2版 (1982) には載せているが, 最新の第3版 (1992) では削除している。

7) WDEU (1989), Copperud (1980), Evans & Evans (1957), Shostak (1968) 等参照。

なお、我が国の辞書も英米の辞書を踏襲して *despite* を *in spite of* よりいくらか文語的な表現としている。語法書の中には、*despite* が今日ではいくぶん古風で文語的ではあるが、ジャーナリズムで好んで用いられることを指摘しているものもある。⁸⁾

以上、現今の辞書・語法書等の見方を総合すると、*despite* と *in spite of* は意味・用法は実質上全く同じであるが、文体上、時として *despite* が、それもイギリス英語で、やや形式ばった文語と感じられることがある、といったところが最も一般的な見方であるように思われる。*despite of* や *spite of* といった形式は正用法とは認められないまでも、口語や俗語レベルでは稀に見かけられることがあるが、元々の形 *in despite of* は今日では古風な表現といったところである。しかし幾つかのアメリカ系辞書は一切の文体レベル表示なしで、これを成句として取り上げていることに注意を喚起しておきたい。

それでは「・・・にもかかわらず」という譲歩の意味を表す *despite* と *in spite of* 及びその関連形式はいつ頃から見られるようになったのであろうか。この点については、MED (s.vv. *despit* prep. & *spit* (e n.)(2)) が最古の用例を提供してくれる。以下に示すように、*despite* という前置詞は15世紀初頭に、*in spite of* という前置詞句はそれよりやや早く14世紀末頃現れる。

a1420 Lydg. *TB* 3.1084: Whiche for Ire gan to tremble & schake, þat Troilus was . . eskaped to be prisoner, *Dispit* his berd & maugre his power.

?a1400 *Dest. Troy* 1968: But for noy of . . my nome gret, I shuld . . Spede the to spille *in spite of* pi kyng.

同じく MED によれば、元々の形 *in despite of* は当然のことながらもっと早く既に1300年頃に初出するが、今日とは多少意味が違って「・・・を軽蔑して」の意である。その他の形式も *despite of* は15世紀初頭で、先の *despite* と全く同一作品に、*spite of* も15世紀末頃に初出する。ということは、これまでのところは前置詞 *despite* とそのもう一段階前の形と目される *despite of* は同一時期に発生したことになる。但し、*of* の落ちた *in despite* (= *in spite of*) については、OED (s.v. *Despite* 6) が稀な語法として19世紀後半の例を

8) 大塚 (1969), p. 333; 小西 (1976), p. 89.

1例挙げるだけである。以下、参考までにそれぞれの初出例を挙げる。

c1300 *SLeg.Becket*(Ld) 981: [He]is prouȝt and conteckor .. *In despijt of þe* and alle þine þis dede he hath i-do. [MED]

a1420 Lydg. *TB* 3.3542: Maugre hym .. þei han from him berafte it .. *Dispit of hem*, his sadel he recureth. [MED]

a1500 Lydg. *KEng*(1)(Lamb)p.30: Edward the First .. wanne Scotlond, magry the Scottes stronge; and all Walis, *spite of her myght*. [MED]

1868 Morris *Earthly Par.* II .92 Flushed and joyful *in despite* her fear. [OED]

なお, Jespersen (*MEG*, V, § 21.4.6) や Curme (1931, § 32) は節を導く *despite (that)* の接続詞用法に言及し, 前者は1909年の新聞より次に示す例を挙げているが, この用法は MED はおろか OED にも全く記録されていない。

NP 1909 it was decided to take the aeroplane for an outing *despite that* a bothersome fog enveloped the field. [Jespersen]

OED の引用例を調べてみると, 今日では古語或は口語・俗語と目される *in despite of* や *despite of*, *spite of* も中英語後期に登場以来, 少なくとも OED 編纂中の19世紀半ば頃までは, 頻度の差はあっても延々と使われてきた語法であることがわかる。

以下で, 1961年の言語資料である LOB 及び Brown コーパスで *despite* と *in spite of* 及びその関連形式を見てみよう。

IV

「・・・にもかかわらず」の意で用いられる表現形式のうち, 元々中英語の '*in despite of*' に由来し, 現在まで生き残って最も多く用いられる形は *despite* と *in spite of* である。その本来の形 *in despite of* や, その後派生した *in despite* は今日ではまず見かけられることはなくなり, 同じく古くからの語法である *despite of* や *spite of* はわずかに俗語や口語に残存しているにすぎない。なお, 同義の '*for all ...*' との混淆からか, *in spite for* なる前置詞句も口語ない

し俗語に見られる、という指摘もある。⁹⁾ 更には, *despite that* という形式で節を導く接続詞用法もある。これら緒々の形式を1961年の書きことばの資料である LOB 及び Brown コーパスで見ると、分布状況は次の通りである。

	LOB	Brown
<i>despite</i>	74	104
<i>in spite of</i>	79	52
<i>in despite of</i>	0	0
<i>in despite</i>	0	0
<i>despite of</i>	0	0
<i>spite of</i>	0	0
<i>in despite for</i>	0	0
<i>despite that (conj.)</i>	0	0
	153	156

質的にも量的にもほぼ均等の両コーパスにおいて、問題の緒形式の合計はほぼ同数であるが、なによりも *despite* と *in spite of* しか用いられていないことがまず目を引く。古風と目される *in despite of* や *in despite*、口語・俗語レベルで散見されるという *despite of* や *spite of*、*in spite for* は全く見られないし、*that*-節を導く *despite* の接続詞用法も起こらない。このことは LOB、Brown が共に1961年時の書きことばの資料であることを考えると当然のことかもしれない。次に注目されるのは、*despite* と *in spite of* の頻度に関して英米間にかなりの差異があることである。イギリス英語の LOB コーパスでは、*despite* と *in spite of* は後者がやや上回るものの、同じくらいの用例数が見られる。然るにアメリカ英語の Brown コーパスでは104例対52例といった具合に *despite* が *in spite of* の2倍も用いられている。今日では文語的で古風な語と説かれることのある *despite* が、より一般的と言われる *in spite of* と比べて、イギリス英語ではほぼ同じ程度に用いられ、アメリカ英語では後者を完全に圧倒していることは注目に値する。しかも、アメリカ英語ではこの短

9) 大塚・小西 (1973), p. 638 に次の用例が挙げられている。

and she was beginning to discover that it should be possible for her to get a man *in spite for* her appearance. -Caldwell, *Tobacco Road*.

い形 despite 増加の傾向は今日益々強くなっているように思われる。¹⁰⁾

では, despite と in spite of 両形の間にはよく言われる文体上の差異があるのであろうか。LOB, Brown 両コーパスは各2,000語からなるテキスト500編を15のジャンル (A-R) に分けているが, それに従って手許の用例を分類してみると次のようになる。(但し, 各ジャンルのテキスト数が同一という訳ではないので, 以下の数字もその点を考慮に入れる必要があることは言うまでもない。)

	LOB			Brown		
	despite	in spite of	計	despite	in spite of	計
A	11	8	19	16	0	16
B	6	5	11	7	2	9
C	6	7	13	5	0	5
D	0	0	0	1	4	5
E	7	6	13	3	4	7
F	10	11	21	12	5	17
G	8	16	24	25	11	36
H	3	0	3	7	1	8
J	9	8	17	15	14	29
K	1	5	6	5	6	11
L	3	3	6	2	1	3
M	0	0	0	1	0	1
N	3	3	6	5	3	8
P	6	3	9	0	0	0
R	1	4	5	0	1	1
計	74	79	153	104	52	156

10) 共同研究者のひとり(許斐)が作成した, 量的にはほぼ両コーパスに匹敵する1980年代以降のアメリカ英語コーパスでは, 全用例151例中 despite 113例(74.8%), in spite of 38例(25.2%)で, 前者が3倍も用いられている。このコーパスでも他の形式は全く起こらない。同様のイギリス英語コーパスは現在作成中であり未だ利用できないが, BBCのニュース放送英語に関して金子(1991, p. 221)は despite は盛んに使われるが, in spite of はほとんど聞かれないと報告している。ということは, イギリスでもジャーナリズム英語はアメリカ同様 despite が優勢になってきているのであろうか。

この表によると、そもそも *despite* と *in spite of* が比較的よく起こるのは、A の 'Press: reportage', F の 'Popular lore', G の 'Belles lettres, biography, essays', J の 'Learned and scientific writings' 等であり、その点は英米で共通している。全く用例が見られないジャンルが LOB では D の 'Religion', M の 'Science fiction', Brown では P の 'Romance and love story' といった具合に英米でまちまちであるが、これは地域差や文体の違いによるものではなく偶然と言うべきものであろう。イギリス英語の LOB コーパスに限って言えば、*despite* と *in spite of* の分野的な片寄りはあまり見られず、どの分野にも万遍なく用いられており、*despite* が特に A-C の新聞英語に多いとも言えない。ところが、アメリカ英語の Brown コーパスでは殆どすべての分野で *despite* が優勢であり、とりわけ A-C の新聞英語において顕著である。A の 'Press: reportage', B の 'Press: editorial', C の 'Press: reviews' の用例を合わせると *despite* 28例に対して、*in spite of* 2例で、アメリカの新聞英語では *despite* が実質上唯一の形と言ってもいいくらいである。更には、F の 'Popular lore', G の 'Belles lettres, biography, essays' でも *in spite of* を大きく圧倒している。用例が多いところで両者が拮抗しているのは J の "Learned and scientific writings" くらいであるが、これは事の性質上 *in spite of* が *despite* より意味が強いと一般に言われていることと関係しているのかも知れない。こう見てくると、やや文語的と思われることのある *despite* が、アメリカ英語では、簡潔さを旨とする新聞英語で特に好まれるばかりか、どのジャンルでもよく用いられており、イギリス英語では、特に新聞英語に多いとは言えないが、どの分野でも *in spite of* とほぼ同じ程度に使われている、と言えそうである。以下、それぞれについて英米より 2 例ずつ用例を示そう。

<*despite*> の例。

- (1) *despite* his spendthrift habits, Sinatra is also exceedingly generous (LOB E11 197)
- (2) Bill wanted her to be his alone – *despite* her past (LOB N20 005)
- (3) *Despite* efforts by Washington last week to play down the significance of the meeting, it clearly was going to be one of the crucial encounters of the cold war (Brown A34 024)
- (4) That summer the gambling houses were closed, *despite* the threats of

Pierre Ameaux, a gaming-card manufacturer (Brown K10 001)

<in spite of>の例。¹¹⁾

- (5) this conception, *in spite of* its failure, aroused the curiosity of Mr Wells and appealed strongly to his imagination (LOB G13 022)
- (6) *in spite of* further blood transfusions he died in coma on October 9th (LOB J17 158)
- (7) *In spite of* the company's restrictions, he planned to build new posts in the territory (Brown F45 134)
- (8) He's always like that, *in spite of* being a big man (Brown L22 092)

先述したように、英米の語法書の中には *despite/in spite of the fact that* という表現形式が *although* の冗長な言い方であると非難しているものもあるが、英の LOB コーパスでは *despite* 74例中 2例, *in spite of* 79例中 4例が、また米の Brown コーパスでは *despite* 104例中 4例, *in spite of* 52例中 2例がこの形式を取っている。それほど多い表現とは言えないようである。¹²⁾ まず英米より各々 1例を示そう。

- (9) privet is usually the first shrub that comes to mind but I would not recommend it *despite the fact that* it is quick in growth, hardy and, in most districts, evergreen (LOB E08 079)
- (10) yet *in spite of the fact that* his ideas did his business no good George would never conceal them (LOB G03 002)
- (11) Also, reserve the right to demand proof of death *despite the fact that* you'll probably never use it (Brown E30 145)
- (12) *In spite of the fact that* the state legislature voted us neutral, John Hunt

11) LOB コーパスに *in* と *spite* がくっついた *inspite of* という形式が 1例見られるが、多分これは時折見られる入力ミスによるものであろう。

he pulled her down and interfered with her clothes *inspite of* her struggles and pleas (LOB A43 017)

12) 上記注10)で触れた我々のコーパスでは *despite* 113例中 9例, *in spite of* 38例中 5例といった具合に、最近になってアメリカ英語で微増の傾向が伺える。

Morgan is openly flying the Confederate flag over his woolen factory
(Brown K15 116)

「事実」を言っている訳ではないのに ‘the fact that …’ を用いている上例 (11) のように、確かに文体上冗長と言えるような例がないことはないが、(9) (10) (12) のように that-節の内容が事実であり、その事実を強調する場合は、この種の表現が一概に冗長 (verbose/wordy) であるとか、ぎこちない (clumsy) とか、とは言えないのではなかろうか。殊に、that-節を導く despite (that …) の接続詞用法が現代英語にないことを考えると、文脈によっては逆に有用な表現形式と言えるかもしれない。

V

以上、「・・・にもかかわらず」という譲歩の意味を表す despite と in spite of 及びその関連形式 in despite of, despite of, spite of 等を、1961年の言語資料であるイギリス英語の LOB コーパスと アメリカ英語の Brown コーパスに基づいて検討してきた。いずれも中英語期以来見られるものであるが、今日最も一般的な形式と考えられている in spite of とやや堅い文語と見なされる despite が、イギリス英語ではほぼ拮抗し、しかも両者共に殆ど全てのジャンルで万遍なく使われている。一方、アメリカ英語ではどの分野でも despite が圧倒的に優勢であり、とりわけスペースの節約が尊重される新聞英語では in spite of を事実上駆逐している。しかもこの despite 優勢の傾向は今日益々強くなっているように思われる。しかしながら、中英語に初出する元々の形式で、今なお多くのアメリカ系辞書や一部のイギリス系辞書で成句として記載されている in despite of は全く見られないし、また、その of の落ちた in despite, 同じく古くから見られる形式でありながら現在では口語・俗語とみなされる despite of, spite of, また今日稀に見られるという俗語表現 in spite for, 更には節を導く接続詞用法の despite(that …) 等は書きことばの資料である LOB, Brown 両コーパスには全く見られなかった。

参考文献

(以下に挙げる文献は小論で言及したものに限定している。)

- ACD = *The American College Dictionary*. New York: Random House, 1962.
- AHD^{1,2,3} = *The American Heritage Dictionary of the English Language*. 1st ed. (1969); 2nd ed. (1982); 3rd ed. (1992). Boston: Houghton Mifflin.
- Chambers⁷ = *Chambers English Dictionary*. 7th ed (1988). Cambridge & Edinburgh: Chambers.
- COD⁵⁻⁸ = *Concise Oxford Dictionary*. 5th ed. (1964); 6th ed. (1976); 7th ed. (1982); 8th ed. (1990). Oxford: Clarendon Press.
- Collins^{1,2,3} = *Collins English Dictionary*. 1st ed. (1979); 2nd ed. (1986); 3rd ed. (1991). Glasgow: Harper Collins.
- Copperud, Roy H. 1980. *American Usage and Style: The Consensus*. New York: Van Nostrand Reinhold Company.
- Curme, George O. 1931. *Syntax*. Boston: D.C. Heath.
- Evans, Bergen and Cornelia Evans. 1957. *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York: Random House.
- Fowler, Henry W. 1965². *A Dictionary of Modern English Usage*. 2nd ed., rev. by Ernest Gowers (1965). Oxford: Clarendon Press.
- Greenbaum, S. and Janet Whitcut. 1988. *Longman Guide to English Usage*. Harlow, Essex: Longman.
- Howard, Godfrey. 1993. *The Good English Guide: English Usage in the 1990s*. London: Pan Macmillan.
- Jespersen, Otto. 1942. *A Modern English Grammar*. Vol. V. London: George Allen & Unwin.
- LDCE^{1,2} = *Longman Dictionary of Contemporary English*. 1st ed. (1978); 2nd ed. (1987). London: Longman.
- Mager, N.H. and S.K. Mager. *Encyclopedic Dictionary of English Usage*. 1st ed. (1974); 2nd ed. (1993), rev. by John Domini. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.
- MED = *Middle English Dictionary*. Ann Arbor, Mich.: Univ. of Michigan, 1952-.
- OALD^{2,3,4} = *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. 2nd ed. (1963); 3rd ed. (1974); 4th ed. (1989). Oxford: Oxford University Press.
- OED = *The Oxford English Dictionary*. Oxford: Clarendon Press, 1933.
- Partridge, Eric. 1973 (1947¹). *Usage and Abusage: A Guide to Good English*. Harmondsworth, Middlesex: Penguin Books.
- Penguin³ = *The Penguin English Dictionary*. 3rd ed. (1979). Harmondsworth: Penguin Books.

- Quirk, Randolph, et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- RHWCD = *Random House Webster's College Dictionary*. New York: Random House, 1991.
- RHD^{1,2} = *The Random House Dictionary of the English Language*. 1st ed. (1966); 2nd ed. (1987). New York: Random House.
- Shostak, Jerome. 1968. *Concise Dictionary of Current American Usage*. New York: Washington Square Press.
- UED = *The Universal English Dictionary*, ed. H.C. Wyld. London: Routledge & Kegan Paul, 1932.
- WCD = *Merriam Webster's Collegiate Dictionary*. Springfield, Mass.: Merriam-Webster, 1993.
- Web.3 = *Webster's Third New International Dictionary*. Springfield, Mass.: G. C. Merriam, 1961.
- Wilson, Kenneth G. 1993. *The Columbia Guide to Standard American English*. New York: Columbia University Press.
- WNWD³ = *Webster's New World Dictionary*. 3rd College ed. New York: Simon and Schuster, 1988.
- Wood, Frederick T. 1962. *Current English Usage*. London: Macmillan.
- . 1967. *English Prepositional Idioms*. London: Macmillan.
- 大塚高信編『英語表現辞典』(英語の語法／語彙編)東京(研究社), 1969.
- 大塚高信・小西友七共編『英語慣用法辞典』東京(三省堂), 1973.
- 金子 稔『現代英語・語法ノート』東京(教育出版), 1991.
- 小西友七『英語の前置詞』東京(大修館), 1976.